看護婦派出の求めに應ず
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

平名産
ブドーアメ
は
榮用生ブドー酒を澤山混入して製したる滋養品なり
發賣元
佐藤ブドー酒店
構内賣
久保田バンヤ

肺病ロクマグの妙藥
ホシアンチツベルケン
（五日分定價一圓八錢）
過去十有年幾多の人を救へる東洋一の此靈藥
肺を病む人　迷ふ勿れ　疑ふ勿れ　信頼せよ
平町三丁目
ホシチエーンストア
電話四二九番

毛糸製品各種取揃へました
新柄セーター
腹巻
肌着
毛シャツ
其他期節用品澤山
ツルヤ
平四、電一四〇

十月十五日より廿五日迄
三井吳服店の冬衣大賣出し
新館陳列　營業大擴張　商品豊富
御祝儀物一式　江戸褄京染金貳拾圓より
本秋の新柄モスリン着尺階上陳列仕候間是非御來觀の程希上候
おつとめ特價品
ニコ〳〵大島壹圓
別染正紺縞壹圓五拾錢
布團縞七拾五錢
本かへき羽裏壹圓六拾錢
着尺モスリン參圓八拾錢
外に破格品山の如し
三井吳服店
平三丁目（電話三八番）
別珍足袋　貳拾五錢
白キャラコ　一萬足限り　貳拾錢
黒朱子　五千足限り　參拾五錢
五千足限り

ステキに良い石炭にコークス
ステキに安い石炭とコークス
ステキに理想的な石炭とコークス
物は試し是非一俵御使ひ下さい。如何に廣告よりも實物が優れて居るかわかりませうから……
平驛前
阿部石炭商店
電話二七三番

大衆向の實用腕時計
保險付
拾八金側拾型バリス金支エトウ　特價拾壹圓
クローム側拾型　特價五圓八拾錢
拾銘々石入型
拾貳銘々石入型
絶對他の追從を許さぬ破格品……
銀側拾貳型バリス拾石入
勞働用に丈夫一式
特價五圓九拾錢
大谷時計病院
平町三丁目（電話一九番）

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平南町（電話一七〇番）

脳と生殖器の藥
エキスピン
一、夜良く寢れぬ人
一、どうも頭がボンヤリする人
一、老衰を嘆く人
一、記憶減退の人
一、性力弱き人
特約店　平町田町
藥劑士
平藥美樂局
電話五五一番

外科專門
入院應需
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

從來田町にて營業致し居り候處今回營業上の都合により左記の所に移轉仕り是を紀念に此後政黨政派に關係せず營業に精念可致此段謹告候
福島縣平町搔槌小路一（田町大通り）
高橋活版所
（電話三一九番）

脚氣、淋毒、梅毒、神經痛の
（德島縣、當金屋の家傳の大妙藥）
退痛散
特約店　平町一丁目
大平屋藥店
電話六四二番
總て藥劑は服用せずして其効を論するを得ず敢て壹週間の服用を奬め以て其實驗的證明を俟つのみ。

常磐毎日新聞
定價　一部金貳錢　一ヶ月拂　郵税五錢
廣告料　一行五十錢
休刊日　日曜大祭　祝日ノ翌日
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社
電話六三〇番
日刊
發行兼編輯人　川崎文治
印刷人
本社ト同番地（電話六三〇番）
印刷所　常磐毎日印刷所

十月十八日夕刊

常磐毎日新聞

白井遠平翁と飯村丈翁

（一）　西村文則

さらですら秋悲しき冷風裡に常磐炭礦界の大恩人白井遠平翁は逝いた、其白井翁とは九年前始めて五六度會つたきりさまでの親交ではなかつた。しかし此五六度は普通人の三年五年の交りよりも私にとつて印象の深いものがあつた事は川崎家の問題、つまり川崎の元老總幕出揃ひといつたやうな場面に於て、微力なる私が其小なる楔子になつた關係から翁にも逢つた丈翁としても、自分一人の力では所詮獨斷のしねない立場にあつたが爲、遂に私を白井翁にさし向けた私はいつも朝早く先づ電話をかけては、翁の千駄本のあの大きな邸宅を訪れた。そして伊太利あたりの古城趾といつたやうな、いかにも古い型の、あの洋館の鈴を鳴らしたものだ。さうしては慈顏に微笑を湛へた翁と相對してぽつり〳〵用件を語り合つた事がいまもさま〴〵と目前に浮び出てる、何でも其れは夏の初め頃の極めて鬱陶しい日の朝であつたが翁はセルの單衣に無紋黒縮緬の羽織そして女めく前掛けをかけて一見一寸老婆のやうな柔かな姿で一語々々念入りに聽いてくれる、さうしては又一句々々諄々と說き出す、さうして、おしまひか上野精養軒の最後の場面になり、八右衛門おん大初め、川崎家の幹部が殆ど其席に列した、翁も丈翁も無論出席はしたが、遠平翁と私とは此以來逢ふ事がなかつた然るにいま突如として其悲報を聞くのである而も丈翁逝いて尙未だ其冢土乾かざるに、丈翁は常に私に語つた。

（つゞく）

ロープが切斷してケーブルカー逆行

逃場を失ひ電工見習一名慘死

入山炭礦第四坑の椿事

十五日午後一時ころ石城郡湯本町入山炭礦第四坑坑内左二坑第五電の地點において俄然ロープが切斷し折柄ケーブルカー作業に從事中の多數電工並びに坑夫は右往左往辛うじて避難したが電工見習ひの宮澤一見(一八)は逃げ場を失ひ逆行して來た炭車に挾まつたまゝ約四十間下の引立まで押込められ炭車と共に滅茶苦茶になつて粉碎無殘な死を遂げたが附近にゐた電工佐々木市郎(三五)は辛うじて避難したるも頭部その他に重傷を負ひ手當中で平署から係官出張檢視をなしたが十六日早朝伊藤警部補出張關係者を召喚當時の模樣を聽取中だが同炭坑は過般も第五坑にロープ切斷事件があり多數の犧牲者まで出したが今回は一名の犧牲者で何れも難を免れたものである

好景氣の時代は馬の飼養が多い

元祿年間から調査した統計に熟心な草野村の高木氏

草野村大字北神谷高木誠一氏はすべての統計調査に熱心で氏に面接して見ると種々參考となるべきものが多いと吉田縣統計課長は賞揚してゐる高木氏は同氏居住の部落四十三戸につき馬の飼養數を元祿年鑑から調査してゐるがこれによると馬の飼養數の多い時は好景氣の時代でありこれに反して少い時は何等かの災害がある時だといつてゐる即ち元文三年に馬二十一頭に減じたのは内藤備後守の苛誅の時であり天保七年十九頭に減つたのは大凶作の時であると次の如く調査をとつてゐる

元祿二　二六　寶保　一〇　二五
元文三　二一　(内藤備後守の苛誅)
寶暦五　二四　安永　六　二三
天明三　二〇　(大餓死)　文政四　二五
天保七　十九　(大凶作)　安政四　二四
明治九　二五　同　二〇　二六
同　二五　二七　同　二〇　二〇
日露戰爭凶作
同　四二　二五　大正四　二六
大正一〇　二五　昭和二　二四

なほ神社佛閣などについても調査してゐるが神社の種類によりてその地方色がわかるといつてゐる即ち海岸地方に諏訪神社の多いのは諏訪神社「諏訪あばれ」と稱して凡神なるを以てゞあるとの入電あり俄に活氣づき各地に激を飛ばしてゐるが一方會社側では挑戰的な態度はとらない

交渉結果良好の入電に罷業團活氣づく

品川白煉瓦の爭議解決未し

品川白煉瓦株式會社湯本町支工場の爭議は既報の如くであるが製産品等は殆どなく休業同樣の狀態となり會社側ではさかんに不熟練職工並びに農民を

臨時雇として雇入れ辛うじてかま場をまもつてゐるが爭議團へ十六日東京本社に向つて交渉中の代表者から

交渉結果良好安心してくれ

方針で　今盛んに赤井村工場並びに附近からかり集めた臨時雇を以つて補充策を講じ事業を繼續する事となつて居り今後の成行きは非常に注目されてゐるが平署では萬一を慮つて數名の警官を派して警戒中である

水戸小學生厭世自殺す

修學旅行として來縣勿來の海岸に投身す

水戸市尋常小學校の高等科生徒約二百名は去る十四日平、勿來方面に修學旅行の歸途常磐線關本驛に於て人員點呼の際一名の生徒行衛不明に氣付き附近青年の應援を得て搜査の結果、勿來町海岸の斷崖上に本人の遺留品を認めたので更に大騷ぎとなつたが翌十五日午後一時半頃屍体となつて勿來町九面海岸に打あげられた植田署からは安藤部長出張檢視したが常磐線友部驛助役の息子神原潤(一四)と云ひ厭世による投身自殺らしい

時から催されたが盛會を極めた

磐女陸上運動會

縣立磐城高等女學校第十四回陸上運動會は十七日午前八時から催されたが盛會を極めた

家庭欄

色白く肌を細く
光澤を出す藥

顏の氣血をめぐらし鮮血を顯し顏の色を白くし、皮膚のきめを細くにしよき光澤を出し、諸々の瘡を生ずることのない藥を左に申しのべます。一、猪求廿匁、白求四匁、青皮二匁、甘松七匁、白丁香二匁、砂仁二匁三奈三匁、赤豆廿匁、皮皐角三斤(さいかちの木の皮)右九味、水にひたして後火にていり乾かして皮を去り半日にして色を白くし、皮膚のきめを細かくする妙法であります、其外西施白玉膏と云つて小豆五合。滑石一匁、白檀一兩、右を粉にして絹ふるひにてふるひ漉して常に面を洗ふとき面にすりこみ、又いづれのとき皮膚にぬつて洗ふと必ず色白くきめを細くする事妙です

新醫學博士矢吹一男氏

矢吹清博士の從弟

磐中の出身

夏井村の產で目下京都大學院に内科專攻中の醫學士矢吹一男氏は去大正十四年京都醫大を出るとから研究に沒頭して血液の酸素解離曲線より觀たる血色素分子の凝聚狀態についての論文が最近の敎授會に於て學位授與に決し博士の榮譽を把握することになつた、矢吹新博士は明治四十五年磐中第十二回卒業で早稻田豫備校から金澤新潟の兩高校を受驗し何れもパスしたが兩親の居住する金澤高校を選んで今日の功を遂ぐるに至つた當年卅三歲の前途多い學者である殊に氏の一門には山形市至誠堂病院長在職の從兄矢吹清博士、次では明年仙台醫大を卒業する矢吹清博士の嫡男で秀才の聞こゑ高い矢吹四郎君も遠からぬ將來の博士を以て矚目され地方にまれなる家門の輝きを見せてゐるが新博士の磐中在學五年間を指導した平町開業の叔父矢吹大輔氏は語る

『私の實兄である一男の父が見込をつけて愛知醫專を出した叔父の私が默々として無頓著の爲めに發奮してくれるのだらう彼の磐中時代は飲料水の不自由な平町で毎朝二町餘を距たる井戸の水汲まで やつた勤勉なものだつたが極柔順で在校中一度も喧嘩をしたことがない當時の成績は中以上で進學に伴つて上つて行つた博士論文は大學を出るとからのものだから驚く程うれしくもないが一と安心をしました今度は靜枝(新博士夫人)に子供でも生んで貰びませう』

と肉親の悅びを滿してゐる

仲秋の旅より

平商關西旅行團(第六信)

憧憬と思慕とを持つた京の都を後にした一行は比叡山に向ふ。約二百人を乘せるケイブルカーにて懸崖絶壁の比叡山を登つた、見上ぐれば、峨々たる岩壁見下ろせば、千尋の谿谷、唯々啞然として固唾を呑んでゐた、ケーブルカーから下りて曲りくねつた坂路を辿つて最高峯四明ケ嶽に達し四隣を眺望した時は壯快で心の廣さを感じた。下りがてら老杉蓊蒼たる中の延曆寺を詣で根本中堂を參拜し、更にケーブルカーによつて坂本に至り、それより汽船にて鏡の樣な琵琶湖上を遊覽し沿道の八景を眺めつゝ石山寺を詣で電車にて大津に着く車中の夢を想ひつゝ午後八時十九分東京行に乘る汽車はたゞ暗の中を疾走するのみ。

(第七信)

邊の雜音に氣が附いて夢を破れば列車は靜岡近くを疾驅して居た。富士、鈴川驛邊より白雪を頂に染めて居る雄大な富士の麗容を可成の間眺むることが出來た、兎角する中に東京驛に着いた。東京支部長大和田氏外數名の先輩諸彦に迎へられ一同徒歩にて東京朝日新聞社を見學した、社内を一巡して其規模の壯大極端なる分業現代文明利器の利用それらに一驚を喫して電車にて九段下に下車、整列の上清國神社に詣づ直に近就館に入りて遠くは石器時代より近くは大正帝の御遺物に至る迄數多の歷史上の參考品を觀た、わけて乃木大將夫妻自刄當時の後着用物を拜しては一入感慨に耽つた進んで維新の快傑大村益次郎の銅像を右に見遞信博物館に着した我國及西洋の電信事業發達の經路其他種々後學に價する物を觀て明治神宮に向ふ、神采豐かなる神宮及寶物殿を拜して無限の印象を胸奥に刻し境内を出づれば急轉今迄の靜寂は喧騷に變つた、代々木より省電にて上野着疲れし足を群玉舍に慰す、全國商業學校長會議に御臨席中の吉田校長先生來りて健康を祝さる、それより三々五々打連れだつて淺草に銀座にと夜の東京を觀る